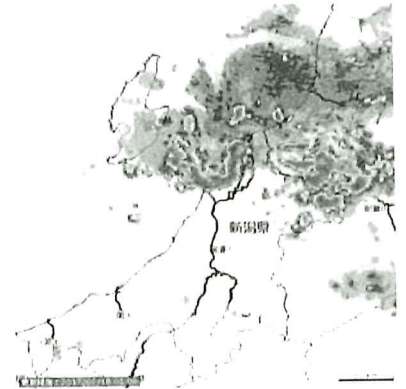


ウィキペディア

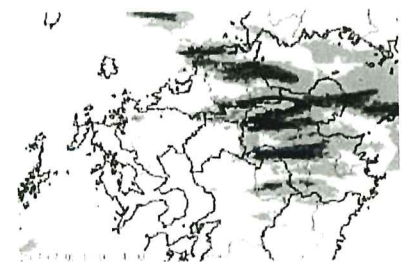
# 線状降水帯

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

線状降水帯（せんじょうこうすいたい）は、「次々と発生する発達した雨雲（積乱雲）が列をなした、組織化した積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞することで作り出される、線状に伸びる長さ50～300 km程度、幅20～50 km程度の強い降水をともなう雨域」（気象庁が天気予報等で用いる予報用語）である<sup>[1]</sup>。日本では、集中豪雨発生時に線状の降水域がしばしばみられることが1990年代から指摘されていた<sup>[2]</sup>。気象研究所の津口・加藤（2014）は、1995年-2009年の4月-11月の期間を対象として、日本で起きた集中豪雨事例を客観的に抽出し降水域の形状についての統計解析を行ったところ、台風によるものを除いて、約3分の2の事例で線状降水帯が発生していることが明らかにされた<sup>[2][3][4]</sup>。近年では、平成24年7月九州北部豪雨<sup>[2]</sup>、平成25年8月秋田・岩手豪雨<sup>[2]</sup>、平成26年8月豪雨による広島市の土砂災害<sup>[5]</sup>、平成27年9月関東・東北豪雨<sup>[5]</sup>、平成29年7月九州北部豪雨<sup>[5]</sup>、平成30年7月豪雨<sup>[6]</sup>で発生した。この用語が頻繁に用いられるようになったのは、平成26年8月豪雨による広島市の土砂災害以降とみられる<sup>[2]</sup>。



雨雲レーダー（Xバンド）が示す線状降水帯。2017年7月18日新潟県の例。



平成29年7月九州北部豪雨（2017年7月5日）の例。福岡・大分付近に、激しい雨の領域が掛かり続けた。

## 目次

- 概要
- 参考文献
- 脚注
- 関連項目

## 概要

線状降水帯の実体は複数の積乱雲の集合体であり、メソ対流系の一種とされる<sup>[2]</sup>。「線状降水帯-積乱雲群-積乱雲」の階層構造をもつ事例もある<sup>[2]</sup>。

局地的な集中豪雨などの原因になっていると見られる。気象庁気象研究所によるレーダー観測の分析では、1995年～2006年に発生した台風以外の豪雨261件のうち、約6割（168件）は線状降水帯に起因していた。日本全国で発生し、九州と四国に多い。発生メカニズムは解明しきれていないものの、発生しやすい4条件として「雲の元となる暖かく湿った空気の流入」「その空気が山や冷たい前線とぶつかるなどして上昇」「積乱雲を生みやすい不安定な大気状況」「積乱雲を流しては生む一定方向の風」が挙げられている<sup>[7]</sup>。

中緯度の線状降水帯については内部構造により、

### 1. スコールライン型

2. バックビルディング型
3. バックアンドサイドビルディング型

に分類される。

## 参考文献

- 津口裕茂 (2016-9-)。 “新用語解説 線状降水帯 ([http://www.metsoc.jp/tenki/pdf/2016/2016\\_09\\_0011.pdf](http://www.metsoc.jp/tenki/pdf/2016/2016_09_0011.pdf)) (PDF)”。『天気』63巻9号。日本気象学会。pp. 11-13。2017年7月15日閲覧。
- 津口裕茂, 加藤輝之 (2014年6月30日)。 “集中豪雨事例の客観的な抽出とその特性・特徴に関する統計解析 ([http://www.metsoc.jp/tenki/pdf/2014/2014\\_06\\_0019.pdf](http://www.metsoc.jp/tenki/pdf/2014/2014_06_0019.pdf)) (PDF)”。『天気』61巻6号。日本気象学会。pp. 19-33。2017年7月15日閲覧。

## 脚注

1. ^ “気象庁が天気予報等で用いる予報用語（2017年3月現在）雨に関する用語 線状降水帯 ([http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/yougo\\_hp/kousui.html](http://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/yougo_hp/kousui.html))”。気象庁。2017年7月7日閲覧。
2. ^ *abcd*efg 津口 (2016) 、 p.11
3. ^ 津口・加藤 (2014) 、 p.19
4. ^ 知恵蔵mini (2017年7月6日)。 “線状降水帯 (<https://kotobank.jp/word/%E7%B7%9A%E7%8A%B6%E9%99%8D%E6%B0%B4%E5%B8%AF-689262>)”。朝日新聞出版。2017年7月7日閲覧。
5. ^ *abc* “積乱雲が帯状に集まる「線状降水帯」豪雨原因に” (<http://www.yomiuri.co.jp/science/20170705-OYT1T50044.html>)。読売新聞。(2017年7月5日) 2017年7月7日閲覧。
6. ^ 「線状降水帯」各地で発生 積乱雲、同じ場所で次々と (<https://www.asahi.com/articles/ASL7956T7L79ULBJ00M.html>)朝日新聞DIGITAL (2018年7月11日) 2018年7月21日閲覧。
7. ^ 【クローズアップ科学】「線状降水帯」は全国で起きる 連続して襲う集中豪雨、予測は困難 (<http://www.sankei.com/premium/news/170820/prm1708200021-n1.html>)『産経新聞』朝刊2017年8月21日 (2017年8月23日閲覧)

## 関連項目

- 積乱雲、テーパリングクラウド（にんじん雲）
- 集中豪雨、ゲリラ豪雨
- 日本海寒帯気団収束帯

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=線状降水帯&oldid=74024650>」から取得

**最終更新** 2019年8月28日 (水) 13:20 （日時は個人設定で未設定ならばUTC）。

テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は利用規約を参照してください。